

ICT情報システム学科 1年 尾崎 純平

今回のゼミナールで、私は大切なことを学びました。

まずは、チームで協力することの大切さです。最初は時間が少ない中で終わらせることができるのか心配でした。しかし、全員で意見を出し合っただけがそれぞれの仕事に一生懸命に取り組んだ結果、無事に完成させることができました。周りの人たちの協力がなければ、絶対に完成させることはできなかったと思います。チームで協力することは社会人として必要なことなので、チームワークを大切にしていきたいです。

二つ目は、自分の実力不足を痛感したことです。プログラミングを任されたとき、一人ではなかなか作業が進まず、先生に頼りっぱなしになってしまい、自分のプログラミング技術不足を実感しました。なので、4月までのこの2ヶ月で、プログラミング技術の向上を図り、春の基本情報技術者試験の合格に繋げていきたいと思っています。

ICT映像・音響デザイン学科 2年 白鳥 悠太

今回私達は新規性を取り入れた虫歯予防のアニメーションの制作をしました。今までになかった全て手書きによるアニメーション制作や、それにあたっての人手不足など不安要素もありましたが無事に完成して良かったと思います。私は中割りの作業を担当しましたが、一緒に作業をした滝浪君の補助的な役割でした。普段から多く描いている彼と比べると自分はまだまだでしたが、この卒業研究の中で成長できました。自分たちが描いた絵を動かすというのは大変でしたが、とてもやりがいを感じることができました。作品の制作に時間を使い過ぎてプレゼンの練習が十分でなかったのが反省すべき点です。今回の卒業研究を通して、以前よりイラストに興味を持てたし、アニメーションの凄さを再確認できました。

<福祉医療 卒業研究・ケアスタディー発表会>

○発表会御参加講師（順不同）

- ・非常勤講師 大橋 孝雄 先生
- ・顧問 神田 均 先生
- ・駿河区地域福祉推進センター 加藤 伶奈 様
- ・野宿者のための静岡パトロール 金子 光司 様
- ・静岡県補助犬支援センター 川口 彩 様
- ・BBS（更生保護） 松林 成美 様
- ・千勝の森健康いきいき教室 水野 充 様

○発表テーマと学生メンバー

- (1) 『手話と点字』～医療事務員として必要なスキル～
早野 小春、金田 奈子、巻嶋 華衣、三輪 あすか
(医療情報秘書科2年)
- (2) 『受け継がれし昔話』
徳永 多映、見崎 南菜花
(子ども心理学科3年)
- (3) 『子ども達の食育について』～食事の大切さと食物アレルギー～
松下 葉奈
(子ども心理学科3年)
- (4) 『「その人らしさ」がもたらすもの』
～知的障害者Yさんと関わって～
小林 弘律
(介護福祉学科2年)
- (5) 『その人をとりまく周辺環境の大切さ』
～余暇時間を持て余していたKさんの支援を通して～
神田 泰志
(総合福祉学科2年)
- (6) 『静友の輪』～ぴーすくろの機能と役割～
松川 晶、牧野 倫昂
(総合福祉学科3年)
- (7) 『小さな広場』～親子のための空間を～
堤 栞、黒田 舞子、杉浦 未聖、増田 圭美、佐野 和美、
鈴木 伸枝
(総合福祉学科3年)
- (8) 『静岡ホームでの活動をとおして』～愛着障害から考える～
多々良 知起、遠藤 あやめ、権田 春香、杉森 千那津、
原 直希、下田 乙矢、大木 蓮、田島 汐美
(総合福祉学科3年)
- (9) 『善意の輪』～立ち直りを支える～
原 直希、下田 乙矢、権田 春香、増田 圭美、杉浦 未聖、
黒田 舞子、田島 汐美、杉森 千那津、多々良 知起、佐野和美、
堤 栞、鈴木 伸枝、小池 真太郎
(総合福祉学科3年)
- (10) 『静岡市におけるホームレスの現状と静岡パトロールについて』
小池 真太郎、遠藤 あやめ、近藤 悠斗、大木 蓮、宮坂 航平、
原田 晃佑
(総合福祉学科3年)
- (11) 『はたらくいぬ』～日常のパートナーとして～
佐野 和美、増田 圭美、原田 晃佑、近藤 悠斗、杉浦 未聖、
黒田 舞子、堤 栞
(総合福祉学科3年)
- (12) 『S型デイサービスの役割』～千勝の森での活動を通して～
宮坂 航平、松川 晶、中村 拓也、近藤 悠斗
(総合福祉学科3年)

○ご出席頂いた講師の方々からの講評【一部抜粋】

- ・プレゼンテーションのレベルが年々上がっている。作成した発表資料等、就職してからも役立つものだ。大切に保管してほしい。
- ・毎年異なる視点での研究や活動が入ってきており感心している。今後は、これらの取り組みや活動を外部に発信していくことが重要だ。
- ・学生たちが勉強会や啓発イベントに毎回参加していただき感謝している。いつも元気で礼儀正しく、スタッフも刺激されている。
- ・学生たちが学外で様々なことを学んでもらえたので良かった。更生保護について、世の中にもっと理解してもらえるよう、今後も一緒に活動してほしい。
- ・学生たちの活動の対象となる方々と信頼関係を築くのは、なかなか難しいが、毎年熱心に参加してくれるので、私たちも頼りにしている。
- ・地元の福祉医療系の学校としていつも本当にお世話になり感謝している。各種の活動をとおして幾重にも関係を深めていきたい。
- ・10年来のお付き合いにて、毎年どのような学生さんがボランティアに来てくれるのかと、利用者の方々もスタッフも皆楽しみにしている。町内会の活動でも、貴校とは関係を深めていきたい。

総合福祉学科 3年 松川 晶

2月26日、諸先生方、各関係者様のお力添えをいただき、福祉医療代表者による卒業研究・ケアスタディー発表会を無事に終えることができました。私たち卒業年度の学生が行なう最後の報告会であり、私自身も含め、この3年間で学んできた集大成を発表させていただくことができたと思っています。

今年度は地域福祉活動として、静岡県立こども病院への活動を10数年振りに再開しました。活動を1から始めていくことはとても大変なことであり、継続をしていくことも大変だとは思いますが、自分たちがこの1年でやってきたように、在校生、これから入学してこられる新入生にも、歴代の先輩や自分たちが築いてきた関係を長く続けていってほしいと思っています。

卒業研究・ケアスタディー作成に際し、今現在の法律や制度、施設の現状などを学ぶことで、私たちが4月から働き始める社会の厳しさ、大変さを改めて痛感しています。しかし、今まで学んできたこと、友達や先生方と過ごした時間を糧に、一人前の職員を目指し、一生懸命頑張りたいと思います。

本学で学んだことはかけがえのない大切なものです。お世話になった先生方、施設の皆様、そして地域住民の方全てに感謝して、この学校を巣立っていきます。本当にありがとうございました。

介護福祉学科 2年 田中 美帆

私たちは、介護福祉士になるためにこの2年間の中で多くの知識や技術を学んできました。特に2月に開催されたケアスタディ発表会は、卒業認定のひとつでもある介護福祉士共通試験の勉強を行いながらその準備に当たりました。初めてのことで、大変な作業の連続でしたが、先生方の暖かいご指導や、学生同士が力を併せることで発表にたどり着くことができました。このケアスタディでは、実習や授業を通して学んだことを活かし発表内容をまとめました。そしてこのプロセスを通して、「なりたい自分」「なりたい介護福祉士」について明確にすることができたと思います。私たちは、この3月にいよいよ卒業し、介護福祉士として旅立ちます。それぞれの目標に向かって新たなスタートを切ります。そしてこれからの道のりにおいても努力を忘れず進み続けたいと考えます。

子ども心理学科 3年 松永 直都

私は、男性保育士の役割、必要性をテーマに卒業研究を行いました。これまで、男性保育士について深く考えたことはありませんでした。今回、保育園に伺い、「女性ではできない遊びができる」「力仕事スムーズにできる」等、男性保育士の方からお話を聞くことが出来ました。実際に実習をさせて頂いた時に力仕事を任せられたりする場面が多く、改めて男性保育士の必要性を感じました。

私は4月から保育士として現場に出ます。卒業研究で調べたことを、学んだだけにせずつい行動していきたいです。そして、男性保育士の役割や魅力を知って頂けたら嬉しいです。

医療情報秘書科 2年 池永 智尋

私は、卒業研究で『日常生活の怪我の程度と応急処置』をテーマとして研究を進めてきました。この研究テーマは卒業した先輩達から広げたものです。私達医療情報秘書科は卒業後医療従事者として医療に貢献していきます。私達が生活している何気ない日常生活の中で心肺蘇生を実践する機会はあまりないと思いますが、もしもの時を考えて知っておいて損はないと思います。昨年に続き石田消防署へ行き心肺蘇生や応急処置の講習をして頂きました。私達が心肺蘇生法を学ぶ事で今後一人でも多くの命を救うことができるかもしれません。他の応急処置にしても知っていれば早期の処置ができます。そういう場面に遭遇した際は積極的に行動したいと思います。今回足りなかった事は後輩にも引き継いで研究してもらえたら嬉しいです。

◆文化祭・学園祭「我道祭」を終えて

学生会会長 総合福祉学科 3年 下田 乙矢

今年の我道祭のテーマは『彩〜いろどり〜』でした。テーマの通り今年の文化祭は各々の個性が出ている我道祭になったと思います。地域の方々や先輩、保護者の方々も多く来て下さり学校の良さをアピールできたと考えます。

卒業研究発表会では、関係者の方々が来てくださり、貴重なご意見、ご感想を賜わり私たちにとって視野を広げる1つのきっかけになりました。

一般公開の学園祭では、各クラスがお店を開き笑顔での応対がとても印象に残っています。卒業生にとっては、学生生活最後の我道祭となり良き友人達と充実した時間が過ごせたのではないのでしょうか。中夜祭においては、私がいじめられた部分もあり上手く進行が出来ませんでした。皆さんが盛り上げてくれたおかげで、無事終わることが出来ました。ご協力ありがとうございました。

私にとって1番のイベントであった我道祭は、理事長・校長先生をはじめ、色々な先生の方や学生会役員の協力があったから無事終わることが出来たと思います。ありがとうございました。



◆平成27年度我道祭 記念講演

「なるほど!ゲームが出来るまで。」

教頭・教育部長 有賀 浩

今年度も「我道祭」の一環として、最終日の2月28日曜日、モノリズム合同会社の代表社員でゲーム・プロデューサー、また本学ゲームエンターテインメント科卒業生である菅原範裕様をお招きして、記念講演を開催しました。

菅原様は、本学を卒業後、当時注目を浴びていた携帯電話用ゲームソフトウェア開発を皮切りに、家庭用ゲーム機器や情報通信システムのソフトウェア開発に多数関わられてきました。1年半ほど前に、もう一人の本学卒業生と一緒に、ここ静岡市の地に有名ゲームメーカーを誕生させるべく起業され、現在はスマートフォンやタブレットなどをターゲットに、ゲーム開発、システム開発と、ゲームプログラミング教室運営に携わられています。全世界的に見たゲーム業界の動向、プロデューサー、ディレクターをはじめとするゲームに関わる様々な職種の解説など、多岐にわたって誰にも分かりやすく解説頂きました。また自身が開発したゲームの開発経緯のご紹介に加えて、大型スクリーンを通してゲーム開発の実演もして下さり、大変興味深く受講することができました。

電子情報だけでなく、福祉医療の学生にも、また教職員にとっても大変貴重な講演となりました。

斯様な記念講演が無事行なえたことを、理事長・校長先生に厚く御礼申し上げます。また、会場準備に奔走してくれた学生会の皆さん、本当にありがとうございました。

